ポスター | 1-05 画像診断

ポスター
画像・心エコー　システム

座長:木村 純人 (北里大学)
Sat. Jul 18, 2015 10:50 AM - 11:20 AM ポスター会場 (1F オリオン A+B)
III-P-010～III-P-014
所属正式名称：木村純人(北里大学医学部　小児科)

[III-P-010]胎児心臓超音波検査における患者体位とモニター位置に関する患者アンケート調査

○飯田 亜希子[1], 神山 浩[1,2], 加藤 雅崇[1], 趙 麻美[1], 渡邉 拓史[1], 小森 暁子[1], 日根 幸太郎[1], 阿部 百合子[1], 鮎沢 衛[1], 高橋 昌里[1] (1.日本大学医学部小児科学系　小児科学分野,　2.日本大学医学部　医学教育企画・推進室)
Keywords:体位, 胎児超音波検査, 二次スクリーニング

【背景】胎児心臓超音波検査の実施において、多くの施設では、超音波機器のモニターが患者（妊婦）の頭の横に位置する体位（ LF： low feedback）をとっているが、モニターが患者の足元に位置する体位（ HF： high feedback）での検査を希望する妊婦を経験し、体位による患者心理について検討が必要と考えた。
【目的】モニター、患者、検者（医師）の位置関係について、患者の心理に対する配慮として、 HFの有用性について調査する。
【方法】平成26年4月1日から同年12月31日までの間に、日本大学医学部附属板橋病院において、産婦人科医から胎児心臓超音波検査二次スクリーニング依頼のあった患者でアンケート了承者31名のうち、胎児発育遅延のスクリーニング目的で、心血管系の異常なしと診断された患者について検討した。全対象者が産科で LFを経験しており、それと比べての HFでの印象を調査した。検者は2名で、検査時間は全て15分以内だった。アンケート項目は、 HFが LFと比較して、1）同席医師や学生の存在が気にならなかったか、2）モニターが見えることが検査の理解上有益であったか、3）検者の腕を邪魔と感じなかったか、4）検者の顔が見えずに不安と感じなかったか、について、それぞれ5段階で評価を行い、5） HFは LFよりも良い体位だと思うか、について3段階で評価を行った。
【結果】対象のうち、心血管系の異常なしと診断された16名について検討を行った。アンケートの各項目の平均点は、1）「気にならなかった」4.3点、2）「有益であった」4.3点、3）「邪魔と感じなかった」3.5点、4）「不安と感じなかった」4.3点、5）「良い体位」2.3点だった。
【考察】大学病院では複数科の医師や学生が診療に加わることが多い。そういった環境下で HFは患者にとっておおむね良い評価だった。患者とモニターを供覧しながら説明することが、患者の不安を取り除くことにつながる可能性があると考え、文献的考察を含めて報告する。

©Japanese Society of Pediatric Cardiology and Cardiac Surgery